



NO.967
2014/4/27
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七



市民健康プールの実施設計図面が出来上がる

市民から要望の採暖室など、 実施設計に反映される

実施設計に反映される

22日(火)、市議会の総務・文教委員会(午前10時から)、生活・福祉委員会(午後1時から)の両委員会にて、市民健康プールの実施設計による審議が行われました。

スポーツ課長による説明の後、質疑に入り、飯田敏勝議員は、昨年、12月に行われた総務文教委員会と生活福祉委員会との合同審査において、基本設計での要望が出されたことがどのように実施設計に反映されているのか、数点にわたって質疑しました。

基本設計には無かった採暖室は18平方メートル、現プールの採暖室14平方メートルより大きく、最大



で30人程の収容能力があり、ジャグジーとの相乗効果が期待されます。
・児童プールは専門家などの意見を聞き、水深80センチで、用途にあわせて60〜80の間の高さを調整できます。
・多目的トイレは、プール側面とはなりませんが、男子更衣室、女子更衣室の間に設置されました。
・受付は、入り口側でなく、入り口を見通せる角度で、玉子型のようなやわらかい曲線カウンターというアール型カウンターを採用しました。
・2階の控室は90平方メートルと広く、移動長椅子などを利用しての観覧可能人数は100〜120人です。

松浦敏司議員は、健康増進の関係で質問しました。

多目的プールの位置などは、トイレ、更衣室に近い方がいいとの要望どおりになりました。また、多目的ホールは個人利用は基本的には出来なく、ソフト事業を含む団体利用のみとのことでした。

健康増進のソフト事業については、この一年をかけて市民の健康増進に役立つ事業を企画して行きたいとのことでした。

いっせいで東奔西走

始まりです。

過日、市民健康プールの実施設計が出来上がり、入札と議会の議決を待って、いよいよ通年化プールとして建設が始まります。

昨今の社会的犯罪、医療事故、食品偽装など信頼、信用が薄らいだ事件が多いなかで、スポーツにおいては安全・安心の健康をつくることへの信頼や信用が必要と感じています。それをプールに当てはめると、プールを通しての運動が市民の健康に本当に役立つものなのかが問われています。

昔のうさぎ跳びや足を固定しての指導、運動方法は、ケガや故障を知らぬまに招いていました。知識のないまま、あるいは十分な準備をしないまま、昔とった杵柄だけでスポーツ大会に参加したり、運動をすると重大な事故につながると思われるようになってきました。

記録、順位だけにこだわらず、運動前は休養をとり、競技ではまず楽しむ事を優先することが今問われています。水泳は数あるスポーツの中で、陸上での運動と違った筋肉を使う、水の中で安心して実践できるスポーツの代表格で、長く続けられるスポーツです。

松浦奮戦メモ

はじめに、お詫びがあります。先週の奮戦記で最後の行から5行目の大正時代の自由民権運動とあるのを「デモクラシー」と訂正し、お詫びを申し上げます。

先週、農業委員会の現況調査で東網走の農地を見てきましたが、場所によって雪解けが順調に進んでいるところと雪解けが遅れ雪がたくさん残っているところがありました。春まき小麦を予定している畑は、4月中旬に種をまかなければなりません。このままでは、間に合わないところがあるので、間に合わないと祈るばかりです。

20日にも義父の用事で稲富地域に行ってきましたが、山里地域は順調な雪解けでしたが、稲富地域は雪がだいぶ残っていました。

山里と稲富は隣の地域なのに雪解けが、これほど違うのかと感じました。昨年は、蒔きつけが1ヶ月遅れましたが、今年はそのようなことにならないように祈るばかりです。

流水

野鳥の海岸調査に参加した。ホオジロガモの群れやウミアイサが浮かぶ二つ岩の海岸を歩く。▼数年前、北海道の海岸に原因不明の鳥の死骸が漂着し野鳥の会が海岸調査を始めた。オイルにまみれた水鳥なども含め大量に死骸が見つかった。同じ時期スズメが今年は見かけないなどの情報があちこちから集まり原因が取りざたされたが結局わからずじまいだった。それを機に毎年調査が行われている。見つけた死骸やオイルを調査表に記入、オイルにまみれた死骸は環境省に知らせ二次被害を避けるため埋めて下さい、鳥インフルエンザの危険があるのでふれぬようにと事前注意も受けた▼人間が勝手にひいた国境線をやすやすと越えて鳥たちは行き来する。▼福島の原発事故から3年余りたち放射能に汚染された漂着物太平洋の向こうに達し事故はいまだ収束せず汚染水のタンクが増殖し続けている。にもかかわらず時々の首相は原発を輸出しようとして躍起、さらには国会で原子力協定が承認された。▼第五福竜丸展示館で買い求めた「蝕まれる星・地球」には大國が世界中で2千回以上もおこなった核実験のことが書かれている。国境をこえて目にも見えぬものが世界中を回っている。▼

「自然は、沈黙した。うす気味悪い。鳥たちはどこへ行ってしまったのか。みんな不思議に思っている。不吉な予感におびえた」とレイチェル・カーソンが「沈黙の春」で地球の汚染を警告したのは半世紀前。私たちは何を学んだのかと思う。諦めまい、と。(た)